



東京都立墨東病院

# 連携だより

発行 東京都立墨東病院 事務局医事課  
〒130-8575 東京都墨田区江東橋4-23-15  
TEL: 03-3633-6151(代表)  
<http://www.bokutoh-hp.metro.tokyo.jp>

VOL. 63

## 2018年 謹賀新年



### 旧年中は大変 お世話になりました

墨東病院長 上田 哲郎 (前列中央)  
副院長 岩間 徹 (前列左)  
副院長 井手 隆文 (前列右)  
事務局長 井村 琢 (後列中央)  
看護部長 畑田みゆき (後列右)  
医療連携室長 宮本 幸雄 (後列左)

新年明けましておめでとうございます。

連携医療機関の皆様には、健やかに新年をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。あわせて、旧年中に賜りましたご支援、ご協力に対し厚くお礼申し上げます。昨年1年間を振り返るとあわただしい年であったように思いますが、おかげさまで大過なく当院が新年を迎えられたことは、皆さまの暖かいご支援の賜物と感謝致しております。私にとりまして、昨年4月に当院に異動して参りましてから、新米院長として、あわただしい日々が続きましたが、地域の先生方からのご支援をいただき、平穏な新年を迎えることができたことに深く感謝申し上げます。

当院は昨年3月、緊急に母体救命処置が必要な妊産婦を必ず受け入れる「母体救命対応総合周産期母子医療センター」の指定を受け、4月には高度ながん診療体制が整備されている病院として「地域がん診療連携拠点病院」の指定を受けました。

院内の診療体制においても、血液内科、呼吸器内科などの戦力を強化し、内視鏡センターを開設することで、内視鏡を用いた診療の拡充を行いました。また、新設されたハイブリッド手術室も、大動脈のステントグラフト治療、脳血管内治療などに積極的に使用しています。おかげさまで、先生方からご紹介いただく外来新患患者数も着実に増加し

ておりますが、今後ご紹介患者をさらに広く、また迅速に受け入れる仕組み作りを模索し、さまざまな形で当院のValue向上に取り組んでいきたいと思っております。

今年は診療報酬改定の年です。介護報酬改定も同時に行われて、医療計画と介護保険事業計画が策定されるなど、「惑星直列の大改革」の年とされています。また地域医療構想を、当地区でも、より深めて取り組む年でもあります。このような激しく変化する医療環境の今年は、当院にとりましても、今後のVisionについて真剣に考えながら行動すべき大切な年だと思っております。激しく変化し、厳しい状況下においても、都立病院の使命である“高水準で専門性の高い総合診療基盤に支えられた「行政的医療」を適正に都民に提供する”ことを堅持しながら、地域の中核として皆様に信頼され愛される墨東病院を目指し、職員一丸となって頑張っていきます。

大きく変化している我が国の医療の流れに翻弄されることなく、地域の医療機関の皆さまと当院の「双方向の連携」をさらに推進し、地域医療にさらに貢献する所存です。変わらぬ当院へのご支援を、今後ともよろしくお願い致します。

新しい年が皆さまにとりまして、穏やかで佳い年でありませう祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

東京都立墨東病院 院長 上田 哲郎

# 内視鏡科

内視鏡科医長 堀内亮郎

## 概要

平成11年7月より内視鏡科が設立された。これまで内視鏡室の運営は1週間に曜日ごとにわけ、月・水・金が内科、火・木が外科で、適宜、救命救急センターが加わるという、曜日ごとに異なる体制であった。平成11年9月より、関係各科の先生方に御協力をお願いして運営を始めている。

内視鏡室は平成11年6月に落成した病棟の3階に位置している。施設とスタッフの拡充により、消化管内視鏡3室と透視下内視鏡1室、気管支鏡1室の計5系列で稼働していたが、内視鏡件数の増加や診断、治療の高度化、多様化に伴い、従来の設備では対応が難しくなっていた。平成29年9月より18年ぶりの大規模改修が計画され、現在工事が進行している途中である。工事が完了すると消化管内視鏡が従来の3室より2室増えて5室となり、透視下内視鏡や気管支鏡も含めて7系列が稼働する予定となっている。新設される内視鏡室では処置を前提として将来的には全身麻酔器の使用が可能となる設備を備えている。

内視鏡領域においては診断、治療の両面で大きな進歩を遂げており、対応できるような機器の整備や知識の更新、技能の習熟につとめるとともに、次世代を担う専門医の内視鏡研修にも力を入れている。



## 診療内容

当科では消化管内視鏡、気管支鏡を用いた診断や様々な治療を行っている（腹腔鏡を除く）。

消化器の分野では消化管出血の緊急止血、異物の除去、ポリープ、早期癌の内視鏡による粘膜切除術、食道静脈瘤の治療、食道狭窄の拡張、ステント留置、逆行性膵胆管造影、胆道ドレナージ、総胆管結石の除去などがあげられる。従来対応できなかった、外来内視鏡施行時の鎮静剤使用、超音波内視鏡、小腸内視鏡、経鼻内視鏡についても今後は対応できる体制の整備をすすめる方針となっている（現在準備を進めているところですが、開始時期は未定です）。なお従来通り胃瘻は施行していない。

呼吸器の分野では、呼吸器内視鏡学会専門医の指導のもと、従来の気管支鏡より細い気管支に到達できる極細径気管支鏡を備え、診断目的では経気管支肺生検、気管支肺胞洗浄、擦過細胞診などを行っている。治療目的では咯血の処置、異物除去、気胸に対する内視鏡的気管支充填術、レーザー治療などとともに中枢気道狭窄症例や気管支食道瘻症例にステント治療も行っている。また原因不明の胸水貯留の診断目的で局所麻酔下胸腔鏡を行っている。

なお内視鏡科専任医師は1名のみ（消化器内科専門）であり、当科は外来・病棟をもたないため、関係する各科の先生方にご協力いただき、上記の検査・治療を行っている。

## 特色・専門分野

スクリーニング的な検査はもとより、治療を含む手技を積極的にやっている。平成28年度の実績としては計8857件の内視鏡検査を施行している。

## 研究・教育活動

日本消化器内視鏡学会、日本消化器病学会、日本呼吸器内視鏡学会に演題を報告するとともに、各種研究会などの活動も行っている。

平日の毎朝、朝8時よりカンファレンスにて前日に行われた内視鏡の検討を行っている。火曜日夕方には病理結果をふまえたカンファレンスを行っている。

日本消化器内視鏡学会指導施設、日本呼吸器内視鏡学会認定施設であり教育病院としての役割もあり、消化器内科、外科、呼吸器内科、胸部心臓血管外科、救命センターなど内視鏡関係部署所属の若手医師が指導を担当する医師の指導のもとで検査、治療を行い学会の取り決めに準じた研修を行っている。

## 今後の展望

従来より検査数の増加、診断、治療の高度化、低侵襲化や苦痛軽減に対する対応、検査枠を増やすことによる予約待ち期間の短縮、検査枠設定の調整により当日の検査待ち時間の短縮に努めてきたが、内視鏡の部屋数、部屋の広さ、リカバリーベッドやその監視体制の整備を含めた諸設備、内視鏡システム等の制約があった。このたびの工事が完了すれば（2018年3月頃の予定）気管支鏡をふくめて5系列から7系列に増加すること、オリンパス社や富士フイルム社の内視鏡システムが刷新され、スコープも整備されることに伴い、診療内容の項目で述べたように従来できなかったことに対応できるようになり、内視鏡診療が大きく前進することが期待される。ハード面の改善のメリットを最大限生かせるように、内視鏡診療に携わる医師、看護師、スタッフ一同着実な努力を積み重ねていきたいと考えている。

## 診療実績

内視鏡検査・処置		件数	
上部消化管内視鏡	内視鏡止血術	4,705	(179)
	粘膜切除・ポリペクトミー		(112)
	食道静脈瘤治療		(101)
逆行性膵胆管造影	総胆管結石除去	602	(108)
下部消化管内視鏡	粘膜切除・ポリペクトミー	3,299	(605)
気管支鏡	TBLB/BAL 他処置	185	(103)
	局所麻酔下胸腔鏡		11
合計		8,857	

**紹介予約のご案内** 当院の受診は救急の場合を除き、紹介予約制を原則としています。 **緊急の場合** 緊急の場合は必ずご一報下さい。

- **電話予約センター** TEL:03(3633)5511(直通) 受付時間 午前8:30~午後5:00
- **診療放射線科検査予約** MRI・CT検査 TEL:03(3633)6191(FAXと兼用)  
RI検査・放射線治療 TEL:03(3633)6192(FAXと兼用)  
受付時間 午前9:00~午後5:00
- **問い合わせ先** 医事課「医療連携担当」 TEL:03(3633)6151(代表)内線2115  
FAX:03(3633)7130
- **月~土** 午前9:00~午後5:00  
TEL:03(3633)6151(代) 当該診療科の救急当番医師
- **夜間、休日**  
TEL:03(3633)6151(代) ER担当
- **三次救急**  
TEL:03(3633)6151(代表) 救命救急センター

● 診療放射線科検査予約の用紙はホームページからダウンロードできます。 [墨東病院ホームページ](#) → [医療関係者の皆様へ](#) → [医療連携のご案内](#) → [検査予約のご案内](#)